



昭和15年の架橋以来、約60年にわたり、大江町のシンボルとして美しい姿を川面に映してきた旧殿上橋と船着場跡



大江町観光ボランティアガイドの会「舟唄の里案内人」会長・石川博資さん

— 国選定の「重要文化的景観」とは、どのようなものですか？
石川 地域の歴史や文化、人々の生活に根ざした景観の中から特に重要

最上川・左沢町場などが山形県で初めて重要文化的景観に選定

〈Moriver編集部〉 今年3月、県内で初めて国の重要文化的景観に選ばれた大江町の「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」について、大江町観光ボランティアガイドの会、舟唄の里案内人「会長・石川博資さん、大江町商工会青年部の清野洋輔さんにお話を伺いました。

地域の文化と生活を物語る「文化的景観」を未来へ



「日本一公園」と呼ばれる楯山公園（国指定史跡左沢楯山城跡）からの眺望

なものや国が選定するもので、「景観の国宝」といえるでしょうか。県内での選定は大江町が初めて、全国では35件目になります。

選定された「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」は、具体的には、城下町のまちづくりと最上川舟運の中継地として栄えた歴史の名残を受け継ぐ左沢の街並み、舟運や漁業など最上川と暮らしが密接に関わっていた町内の河川流域すべて、中世に築かれた山城の左沢楯山城跡を中心とした楯山公園のある楯山、この3つの地区なんですよ。



大江町商工会青年部・清野洋輔さん

— 商工会の活動との関わりなどは？
清野 最初は「重要文化的景観」と聞いても正直ピンときませんでした。が、商工会青年部の主張発表県大会で発表するネタ探しに、選定記念シンポジウムに参加したんです。
 その時、東北芸術工科大学の志村直愛先生が「ただならぬ普通」と言われ、自分にとっては見慣れた普通の風景を、他所の人は素晴らしいと感じます。まず、そのことに驚きましたね。
 また「建物だけでなく地域の文化や人々の歩みが複合的に絡みあっている」と聞いて、91年の歴史がある大江の花火大会に関わっている青年部の活動も、少しでも選定要因の一つにつながりを感じました。

歴史・文化・暮らしに根ざした景観が選定され地域とのつながりを実感

巻頭特集

国選定 重要文化的景観
 最上川の流通・往来及び左沢町場の景観

歴史文化の街を歩いて あてらぎわを歩く

かつて最上川舟運の河岸として栄えた大江町左沢。その時代の名残を受け継ぐ街並みや自然景観、いまも人々が暮らす昔ながらの商家など、まちを歩けば、ふっと歴史の息づかいが感じられます。

取材 / 渡辺和志 デザイン / 矢口直樹 撮影 / 奥山茂俊

会津屋清野家内部
 築100年以上のお蔵

会津屋清野家は左沢町場・原町通り沿道最大級の商家で、元造り酒屋。明治期に建てられたとされる木造2階建ての母屋、大きな鬼瓦のある店蔵、江戸期の竣工とされる土蔵などが並ぶ。

